学校番号	３０２２

令和２年度　地理歴史科

教科	地歴公民	科目	日本史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説日本史Ｂ」（山川出版）						
副教材等	「新詳日本史」　（浜島書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

２年次において学習した古代から現代に至る歴史の展開を、文化史・経済史の観点でさらに深める。さらに近代から現代における国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連づけて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。

２　学習の到達目標

・諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身に付ける。
・歴史的な思考力の育成を図るとともに、国際的な視野をもち、平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	政治史・外交史を中心とする日本の歴史に対する関心や課題意識を高め、意欲的に追究する。	日本の諸課題を歴史的に考察し、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断して、表現する力を養う。	日本の歴史に関する諸資料を活用し、公正に情報を分析したり、まとめたりする。	日本史についての基礎的な知識を身につける。
評価方法	ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	小テスト 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期中間	幕藩体制の展開 経済の発展　元禄文化	・幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ・経済の発展に関連して町人文化が形成されたことについて町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解させる。	○	○	○	○	・貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都の発達に見える都市の経済的繁栄に着目して、諸産業の展開を考察できたか。 ・元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大など経済の発展や、幕府の教学として発展する儒学などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。	ワークシート 定期考査 提出物 小テスト

1学期中間	幕政の改革 幕藩体制の動揺 幕府衰退と近代への道 宝暦～化政文化	・農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。 ・欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。 ・近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ・学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する	○ ○	 ○ ○	○ ○	 ○ ○	・幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察できたか。 ・列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革における失政を踏まえて、幕府の衰退をみることができたか。 ・マニュファクチュアなど近代の萌芽がみられ、諸藩の財政再建から軍事産業確立に至る雄藩の出現過程を考察できたか。 ・社会の変容に着目して、この時期の学問の確立、各地に設立された教育機関の展開をとらえられたか。 ・幕藩体制に批判的な学問・思想の起こり、寺子屋など庶民教育機関の普及、浮世絵に象徴される出版文化の発達などに着目して、文化における近代化の芽生えを考察できたか。	
1学期期末	開国と幕末動乱・明治維新と富国強兵 近代国家の成立 立憲国家成立と日清戦争	・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。 ・欧米の文化・思想の導入と一連の近代化政策に対する反動としての士族反乱・農民一揆の失敗と、言論による要求実現への転換を理解する。 ・明治初期の対外政策について、欧米への対応と、アジアに対する外交政策の違いについて考察する。	 ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	日米和親条約・修好通商条約締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響を考察できたか 藩置県・徴兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。 近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間に受容と反発があったことを理解できたか。また、武力反抗から言論による抵抗に移行する要因を考察できたか。 国境画定を含む明治初期の外交政策について、欧米諸国への対応とアジア諸国への対応の違いを多面的・多角的にとらえることができたか。	ワークシート 定期考査 提出物 小テスト

2学期中間	近代国家の成立 日露戦争と国際関係 近代産業発展 近代文化発展 第一次世界大戦 ワシントン体制	・開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を諸外国の動向と関連付けて考察する。 ・立憲体制成立後から桂園時代にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の対立と協力の視点から考察する。 ・日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。また近代産業の発展に伴う社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。 ・伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ・第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。 また、対戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて考察する。 ・ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。 民主主義的風潮による社会運動の動向を理解すると共に、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○ ○ ○	・英露対立という世界情勢を背景とした日露戦争が軍事力・経済力・工業力など国家の総力を結集して戦われた点を考察できたか。また、日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激した反面、その後の韓国併合や満州進出の動きが国民の対外意識や近隣諸国の受け止め方への変化につながったことについても考察できたか。 ・立憲政友会の成立から桂園時代に至る過程について、軍備の拡張の視点を踏まえて考察できたか。 ・殖産興業政策を基礎に産業基盤の整備が進み、繊維部門での産業革命以降、製鉄・造船などの重化学工業の形成、鉄道・海運の伸張、財閥の形成、寄生地主制の成立などを相互に関連づけて考察できたか。 ・劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾鉱毒事件などに関心を持ち、社会運動への政府の対応に着目できたか。 ・国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できたか。 ・第一次護憲運動による大正政変以降、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解し、欧米からアジアに至るまで広い範囲の国際環境の推移に着目し、対華二十一カ条要求・シベリア出兵が国内外に及ぼした影響について考察できたか。 ・大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について考察できたか。 ・ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目できたか。 ・労働争議・小作争議・女性解放運動・部落解放運動・社会主義運動など様々な社会運動が起こってきた背景に着目できたか。 普選運動・護憲三派内閣の成立・治安維持法の成立などに着目して政党政治を考察できたか。	ワークシート 定期考査 提出物 小テスト

2学期中間	大正文化 近代国家の成立	・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。	○		○	○	学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。	
2学期期末	恐慌の時代　軍部の台頭　第二次世界大戦　占領と改革　冷戦の開始と講和 占領化の日本	・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ・社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 ・日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について考察する。 ・日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ・第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。 ・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を考察する ・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義を考える。	○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、背景となる関東大震災・金解禁・世界恐慌との関連を含めて理解できたか。 ・無産政党の誕生など社会主義運動が高まる中、山東出兵や統帥権干犯問題など軍部の政治的進出を背景に協調外交から積極外交へと転換していく過程を考察できたか。 ・満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。 ・中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から考察することができたか。 ・連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうえに成り立っていた総力戦体制などを踏まえ、日本がアジアの諸国に多大な損害を与えたことや広島・長崎への原爆投下など日本も空前の戦禍を被ったことに着目できたか。 ・ＧＨＱによる諸政策が、対日占領政策に基づくとともに、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことに気付けたか。 ・主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の３原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を、国民生活の状況も踏まえて考察できたか。 ・中華人民共和国の成立、朝鮮戦争の勃発に伴う占領政策の転換として、経済面では経済安定九原則、政治面では警察予備隊の新設に着目して考察できたか。 ・サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を考察できたか。	ワークシート 定期考査 提出物 小テスト

3学期	高度成長の時代 55年体制 経済復興から高度成長へ 経済大国への道 冷戦終結と日本社会の動揺 激動する世界と日本	・独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める 55 年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する。		○		○	・保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察できたか。	ワークシート 提出物 小テスト
		・冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する		○	○	○	・日ソ共同宣言をはじめとするサンフランシスコ非調印国との国交交渉と、国際連合加盟の意義を理解できたか。また、その後の新安保条約・ＬＴ貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などを取り上げ、外交・政治の再編過程を把握できたか。	
		・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。		○		○	・特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察できたか。	
		・消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について考察する。	○		○	○	・耐久消費財の普及による豊かさの享受、流通網・交通網の整備、技術革新が進む一方、農村の過疎化や公害問題などの社会問題にも注目したか。	
		・ドル＝ショックや、石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を考察する。	○	○		○	・ベトナム戦争を遠因とするドル＝ショックや第四次中東戦争に発する石油危機による世界経済の混乱に対応するため開かれた主要先進国首脳会議が、その後の世界的な問題解決の場となったことに気付いたか。	
		・高度成長が終焉し、保守政権が動揺するなか、二度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。		○		○	・石油危機を技術革新で乗り越え、経済大国となった日本が ODA などの社会貢献や貿易摩擦・円高への対応が求められたことが考察できたか。	
		・冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる		○		○	・冷戦終結後の東欧革命、５５年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察できたか。	
		・科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。	○	○			・原子力に対する安全性、国連平和維持活動への対応、経済不況に対する国内改革など、具体的な例をもとに理解することができたか。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。